

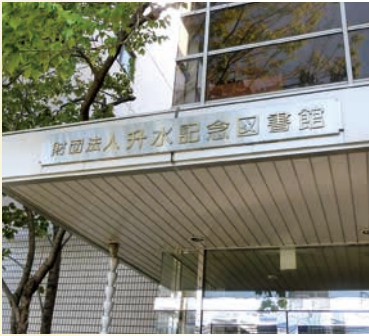
たわわ

2020
No.110

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



(一財) 升水記念市民図書館 館長 升水由希さん



なったのはこれが原因かもしれません。

大学卒業後、国会図書館に就職しました。ある時、父の親友から「親戚に図書館を持っている人がいるのだけれど、そこへ嫁いでみないか」というお見合いの話が持ち込まれました。自分の図書館を持っている？それはとても魅力的なことであり、お見合い相手の主人もさすがに類まれな勉強家、読書家。国会図書館に勤めていたことがここに繋がり、図書館の運営を担うことになり、図書館と結婚したともいえる現在です。私が任せられるようになった時、一般的な図書館ではなく、私自身が一番興味がある分野で楽しくやっていける図書館にしたいという思いから子どもの本の図書館をスタートさせました。それは2008年秋のことでした。

たくさんの子どもの本に触れば触れるほど、私ってこんなに子どもの本が好きだったんだっけ？と自分でも不思議なくらいどんどん絵本の魅力に惹き込まれていきました。「ママ、さっきからすごく幸せそうな顔して買ってきた絵本を読んでいるけれど、私たちの晩ごはんどうなったんですか」と娘たちに言われることもよくありました。

蔵書の絵本は週に一度を目安に自分で本屋さんに出向き買い揃えています。2～3週間本屋さんへ行かないとこの間にどんな新しい本が出ているのか、本の鮮度が落ちてしまうよ、と心配でソワソワ。本は自分で手に取って選ばないと失敗します。新聞や雑誌の紹介記事を鵜呑みして購入し、期待していたものと違う、ということもたびたびあります。店頭で吟味して買ってきたはずの10冊の中でも、これは絶対にお薦めという本との出会いはいつも1～2冊です。こうして選んだ本を来館者や勉強会の参加者に紹介する機会を得て、そこでみなさんの「うん、すごくいい！」という声を聞き、その絵本の魅力を共有した時の喜びは本当に大きなものです。



館内の様子

年に1・2度開催している講演会には幸せなことに知名度の高い作家の方々が来てくださっています。どうしてこんな有名な方をお呼びできるのかとよく尋ねられます。何も特別な縁故や方法があるわけではありません。是非お話を聞きたい、どうしても来てほしい、という思いを相手に伝えること、ただそれだけです。例えば、図書館の2階にはミロコマチコさんの大きな作品を飾ってありますが、これはミロコさんのライブペイントをどうしてもうちの図書館で、と紀伊國屋書店で開かれたミロコさんのサイン会に出かけて行って直接お願いして実現した結果のものです。今では図書館の宝物

になっています。

講演会に来てくださった作家の方々とはその場限りでなく、その後もずっと交流が続いています。そのことが次の出会いに繋がり、次の企画に繋がり、企画の充実に繋がっていると実感します。



作家・林望さんの講演会

去年初めて試みた「ぬいぐるみのおとまり会」は大好評でした。夕方子どもたちがお気に入りのぬいぐるみを持って来館。ぬいぐるみだけが図書館に泊り、それぞれのぬいぐるみが図書館で本を読んだり、読んでもらったりと一晩楽しく過ごした様子を写真に撮り冊子にまとめ、翌朝迎えに来た子どもたち一人一人に手渡すというイベントです。スタッフは徹夜になる大変な作業ですが「次はいつ？」とリクエストされたり、お礼のお手紙が届いたり、と嬉しい反応がたくさんありました。もちろん次も考えています。



絵本作家・ミロコマチコさんのライブペイントイベント

図書館運営は大好きな本と向き合えるいい仕事ですが、一方で施設の管理や財政面での苦労も絶えません。それでも本が好きという気持ちが原動力。そしてこの活動に共感してくださる作家の方々、通ってくださる来館者のみなさん、ボランティアとして関わってくださる多くの方々の協力があってこそこの図書館運営です。周りの方たちの力を支えに、これからも地域のみなさんにとって、私自身にとってこの図書館を幸せな場所にすることが私の大切な務めと感じる日々です。

【プロフィール】

升水由希 (ますみず ゆき)

1956年生まれ。

大学卒業後国立国会図書館に入館し、14年勤務。

2人の子どもたちが小学校に入った頃、東北沢でNPO法人を設立し読書指導、作文指導を開始。その後嫁ぎ先の財団法人図書館の運営に関わり、3代目理事長職に就く。2008年秋、子どものための本を中心にした『こどもブックサーカス』として図書館をリニューアルオープンさせる。「本」が好き、「人」が好き、その好きなふたつを繋げる図書館運営に今チカラを注いでいる。

ホームページ <http://www.masumizu-lib.jp/>



ひらつかの文化財を知ろう ②1

相模川と平塚の文化財

相模川が蛇行して流れ下っていたことや、少なくとも古墳時代以降、地域交流の中心として機能していたことを前回記載しました。相模川を中心とした河川は物資の流通、文化の交流、生活の糧として重要な農業用水など、恵みの水として重視されてきたのですが、逆に大規模な災害をもたらす荒ぶる神として畏怖されてきました。寒川神社や前鳥神社など相模国の式内社が相模川沿いにあることもそういった河川祭祀に係る可能性がありそうです。相模川の氾濫についての記録は意外に少ないのですが、『吾妻鏡』建久元（1190）年に洪水により民家一宇の流出の記事があります。また、天文17（1550）年には大洪水があり、田村妙楽寺や八幡泉蔵院、成事智院の流出など流域に大きな被害を与えています。こうした傷跡は、現在も相模川沿いの段丘崖にみることができます。

さて、相模川流域では近年まで、砂利採取船による砂利採取が盛んでした。その際に、大正14（1925）年や昭和38（1963）年、須賀の相模川中から五輪塔の輪石などが採取されたことが記録されています。

市の指定文化財に鉄製の舌長鐙（したながあぶみ）がありますが、昭和15（1970）年頃、馬入鉄道橋の下流付近で砂利採取作業中に発見され、平塚市博物館に寄贈されたものです。いわゆる武蔵鐙と言われるもので、同種の鐙は東京都御嶽神社奉納品1双と東京国立博物館所蔵品2双などがあり、両方とも鎌倉時代のもので位置付けられています。大きさ等の類似から、鎌倉時代のもので考えられ、歴史資料として高く評価されるものです。

相模川は氾濫などをとおして流路を大きく変えてきました。これらの五輪塔や鐙などの出土は、河川中に中世の寺院が埋没していることを示していると考えられます。

（文化財保護担当）



平塚市指定重要文化財 鉄舌長鐙
（てつしたながあぶみ 平塚市博物館所蔵）

リトアニアだより (10)

今回はリトアニアの世界遺産についてご紹介します。リトアニアでは世界文化遺産として4ヶ所が認定されています。



ヴィリニユスの歴史地区

1つ目は首都ヴィリニユスの歴史地区（旧市街）です。旧市街としてはヨーロッパ最大で、1994年に世界遺産に登録されました。中世の建築物が現存し、美しい街並みが有名です。

様々な建築様式の建物が見られますが、中でもバロック建築が有名な聖ペテロ&パウロ教会や、ナポレオンが持ち帰りたと言った聖アンナ教会などが見所です。

2つ目はクルシュー砂州です。2000年に登録されたリトアニアの北西部にある砂州で、バルト海の流れによって砂が集まって作られたものです。全長98kmのうち、北側52kmがリトアニア、残りがロシア領となっており、リトアニアとロシアをまたぐ世界遺産です。夏にはビーチリゾートとして多くの人で賑わいます。



クルシュー砂州

3つ目はケルナヴェ考古遺跡です。広大なケルナヴェ国

立文化保護区がケルナヴェ考古遺跡として2004年に世界遺産に登録されています。

リトアニア東部のネリス川付近にあり、遺跡からは旧石器時代の住居跡や歴史を伝える遺物が見つかっています。リトアニアの先祖を語る上で欠かせない重要な場所です。中世にはリトアニア大公国の首都として栄えた町でもあります。



ケルナヴェ考古遺跡
（©駐日リトアニア共和国大使館）

4つ目はシュトゥルーベの測地弧です。ドイツ出身のロシア人天文学者が中心となって1816年から1855年にかけて設置した三角測量点群で、地球の大きさを図る上で重要な役割を果たしました。当時設置された265カ所の測量点のうち、34カ所が2005年に世界遺産に登録されており、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド、ロシア、エストニア、ラトビア、リトアニア、ベラルーシ、モルドバ、ウクライナの10カ国の国境をまたがっているという珍しい世界遺産です。



シュトゥルーベの測地弧
（©駐日リトアニア共和国大使館）

リトアニアを訪れた際には世界遺産巡りをして面白いかもしれません。

足もとの星座たち 第10回

平塚駅周辺の商店街に設置された星座絵タイルを紹介する「足もとの星座たち」、第10回は、初夏の夜空を飾る星座である、てんびん座とかんむり座を紹介しましょう。

てんびん座は、ギリシャ神話の正義の女神アストライアが持つ、正邪をはかる天秤を象ったものだとされています（てんびん座の西隣に位置するおとめ座を正義の女神アストライアとする説があります／当コラム第4回参照）。また古代ローマでは、昼夜の長さを等しくはかる天秤だとも考えられていました。

てんびん座は、ひらがなの“く”の字を裏返したような星並びをしています。ただし最も明るい星（ズベン・エス・カマリ）でも3等星であるため、平塚の街中ではよほど空が澄んでいないと見つけることは難しいでしょう。めぼしい天体もありますが、2番目に明るい星ズベン・エル・ゲヌビは肉眼でも見分けることができる二重星として知られています。



てんびん座星座絵タイル1



てんびん座星座絵タイル2

かんむり座は、ギリシャ神話の豊穡と酒の神ディオニユースがクレタ王の娘アリアドネーに贈った冠だと言われています。アルファベットの“C”を裏返したようなその形は、日本では太鼓や竈、首飾りなどに見立てられていました。

かんむり座は、初夏の夜空高く昇る星座で、本号が発行される6月上旬には夜の9時頃に頭の真上近くに見ることができます。ほとんどの星はあまり明るくないので平塚の街中では見ることが難しいですが、最も明るい星、2等星のアルフェッカは、うしかい座のアークトゥルスとこと座のベガを目印に見つけることができるでしょう。2つの星を結んだ直線上、真ん中よりもややアークトゥルス寄りあたりに見えるはずです。

てんびん座の星座絵タイルは平塚駅西改札口を北に出たすぐの通りを西に行った先（中央地下道の手前付近）に、かんむり座の星座絵タイル（絵タイルというよりレンガアートですが）は、プラザロードの一本東の通り（湘南スターモールと紅谷町パールロードを南北に結ぶ通り）に設置されています。

なお、てんびん座の星座絵タイルは2種類あります。ぜひ探してみてください。（平塚市博物館学芸員）



かんむり座星座絵タイル3

平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。

基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。

基金に御寄附いただいた方々（2020.5.31現在。敬称略） 2020年2月10日 湘南ステーションビル株式会社

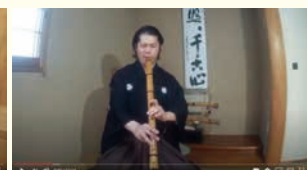
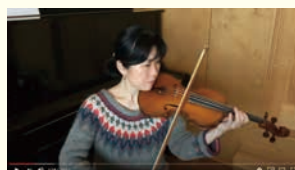
お家で楽しむ文化芸術

ご自宅で気軽に文化芸術を楽しんでいただけるように、本市に縁のあるアーティストの皆さんが作成した動画を配信しています。心と体のリフレッシュにぜひお役立てください。

検索ワード

お家で楽しむ文化芸術 平塚

検索



ホームページ http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/page40_00034.html

発行

平塚市文化・交流課 | 〒254-8686 平塚市浅間町 9-1 電話 0463-32-2235 FAX 0463-21-9756

令和2年(2020年)6月15日発行

e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp

ホームページ http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/page-c_00216.html